

佐事研だより



佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人 森 清隆

会員各位

会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。気象庁の発表では今年の冬は暖冬という事ですが、朝晩寒い日が続いております。年末調整も終り、残るは来年度予算編成でしょうか。最後の一踏張り頑張りましょう。

平成14年度 第4回理事会について(要旨)

1. 第13回佐賀県公立小中学校事務研究大会の反省について

11月7日に大会開催を予定し準備を進めていましたが、県教委主催学校事務職員研修会が11月7～8日に、佐賀市ではフリー参観デーが11月7日に開催されることとなり、11月15日に期日を変更せざるをえませんでした。(この件については、常任理事を通じて連絡済み)

アンケートについては集約率の低下が目立ってきている。

対策・大会で5分程度の記入時間を設定したらどうか。

・コメントの欄については、記入を強制することはない。

2. 研究発表について(各地区からの意見)

佐事研ビジョン

- ・今後のことを考えると佐事研の若返りが絶対に必要である。
- ・今後の方向性、具体的実践が重要。
- ・理屈では納得できても、職位や人事交流にはアレルギーがある人も多い。
- ・今後は佐事研ビジョンの内容で具体化できるものから検討し、具現化していく。
- ・市町村合併や新公務員制度をふまえてビジョンを進めて欲しい。

事務の共同実施マニュアル

- ・鳥栖市で来年度の共同実施の加配を申請中。
- ・教育委員会の財務事務が学校に移行してきているので、今後を見通せば共同実施は是非必要である。
- ・玄海町では加配を伴わない共同実施を行っている。
- ・センター方式も視野に入れていいのではないかと。タブー視する必要はない。
- ・今後、再雇用職員が増え、正式採用職員との職務内容に差がないと、学校事務全体が囑託(再雇用など)に移行していくことが危惧される。

職務規程モデル(案)

- ・佐賀市では学校管理運営規則の検討が進んでいる。
- ・多久市では財務取扱要領に続き、文書取扱規程について研究中。
- ・市町村合併が目前となっている今、近隣市町村同士の情報交換やすり合わせが必要である。
- ・小城町で学校管理規則の検討が行われている。

3. 特別講演(全事研会長 神谷敏明様)について

現在、講演記録の作成・添削・修正を行っています。各地区の研修部員へメールで送信しますので、全会員への年内配布をお願いします。全会員には、印刷物として研修部員より年内には届く予定。

4. 佐事研セミナーについて

- ・会員以外も多数の参加を予定しています。
- ・今回は学校の施設設備についての講演内容なので、会員からも各地教委の施設担当者にセミナー参加の呼びかけをお願いします。
- ・事前質問・アンケートを各地区理事でとりまとめて、1月15日までに、三根西小 小川研究部長に提

出。

- ・地教委からの事前質問・アンケート提出の呼びかけもお願いします。
- ・今回のセミナーの講演記録は、研究部が担当します。
- ・各地区から1名ずつ受付をお願いします。（来賓・県外参加者については研修部と事務局で受け付けます。）
- ・レセプションは、1月28日（火）はがくれ荘にて、PM6：00より5,000円の会費で行います。当日は、県教委 清水副教育長にも出席していただき、文科省 笠井補佐と歓談できるよい機会ですので、皆様の御参加をお願い致します。
- ・レセプション参加については各地区理事でとりまとめて、1月10日までに、事務局の川上小 野口に提出。

5．研究部の今後の方針、班編成について

職位・人事交流に関する研究については常任理事も参加する直属の委員会を発足し、検討を進めたほうがよい。具体的な進め方については次回理事会で提案。

6．共同実施のありかたについて（全国情報より）

佐賀県教育委員会からの来年度要求は、多くないらしい。

現在のところ、文科省で50名程度加配枠が残っており、年度途中参加も可能なので、校長 地教委 教育事務所を通じてどんどん希望して欲しい。

7．全事研について

常任理事会では、第14回大会で全事研について加盟の方向で検討しています。ただし、それまでには加盟の方法、会費の問題などについて、会員の意見を広く収集し、検討していく必要があるため、各地区でも会員の意見集約の方法を含めた全事研に関する話し合いの継続をお願いします。

8．佐事研ホームページの運営について

情報の管理を徹底するためのガイドラインの作成及び管理責任の所在については、常任理事会に一任します。ホームページの運営を当面、調広部より事務局に移管し、事務局長の管理下に置くことになりました。

9．平成14年度会計補正予算について

事務局提案の補正予算が承認されました。尚、承認された補正予算については、“佐事研だより”に掲載されていますので御覧下さい。（最後に掲載しています。）

10．5事務所間の事務処理統一について

11月22日に各教育事務所の庶務係全員参加で事務所間の話し合いがもたれました。年度内には何らかの回答が予想されます。この件については前進しています。

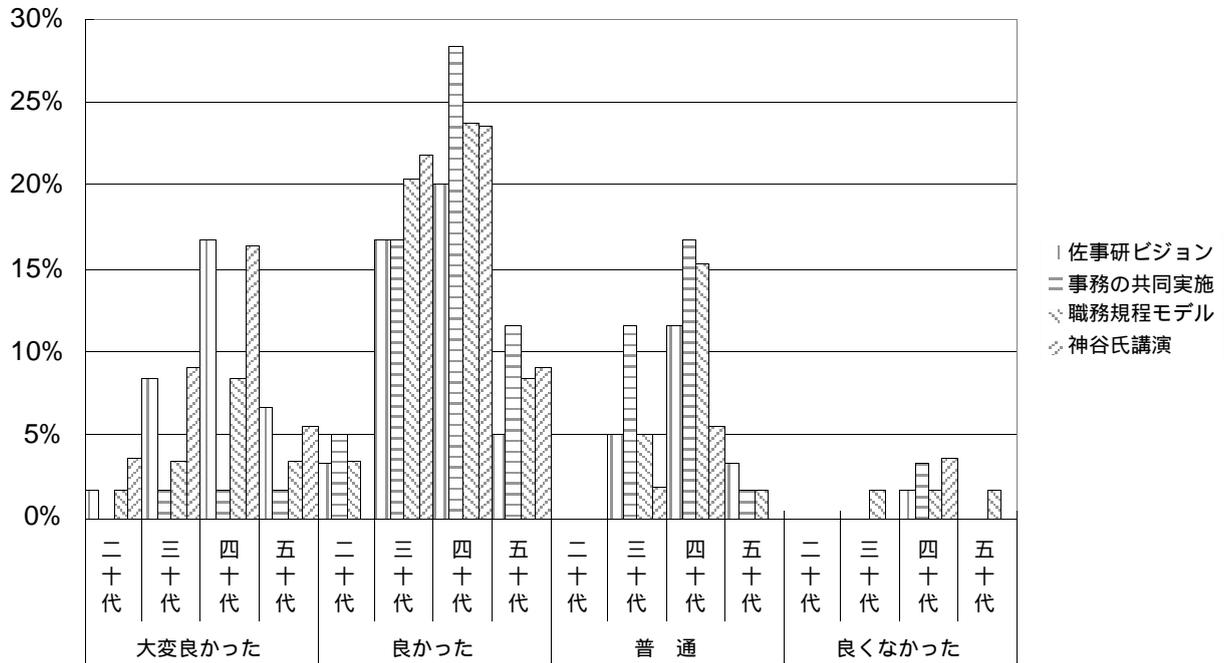
第13回 佐事研大会アンケート集計結果報告

11月15日、第13回佐賀県公立小中学校事務研究大会の際に大会アンケートを実施させていただきました。皆さまのおかげで集計ができましたのでご報告いたします。参加者数は、会員が219名、県外・その他の方々が44名で、合計263名です。アンケートは60名の方々にご提出いただきました。グラフは%表示です。県内・県外も一緒にして処理をしています

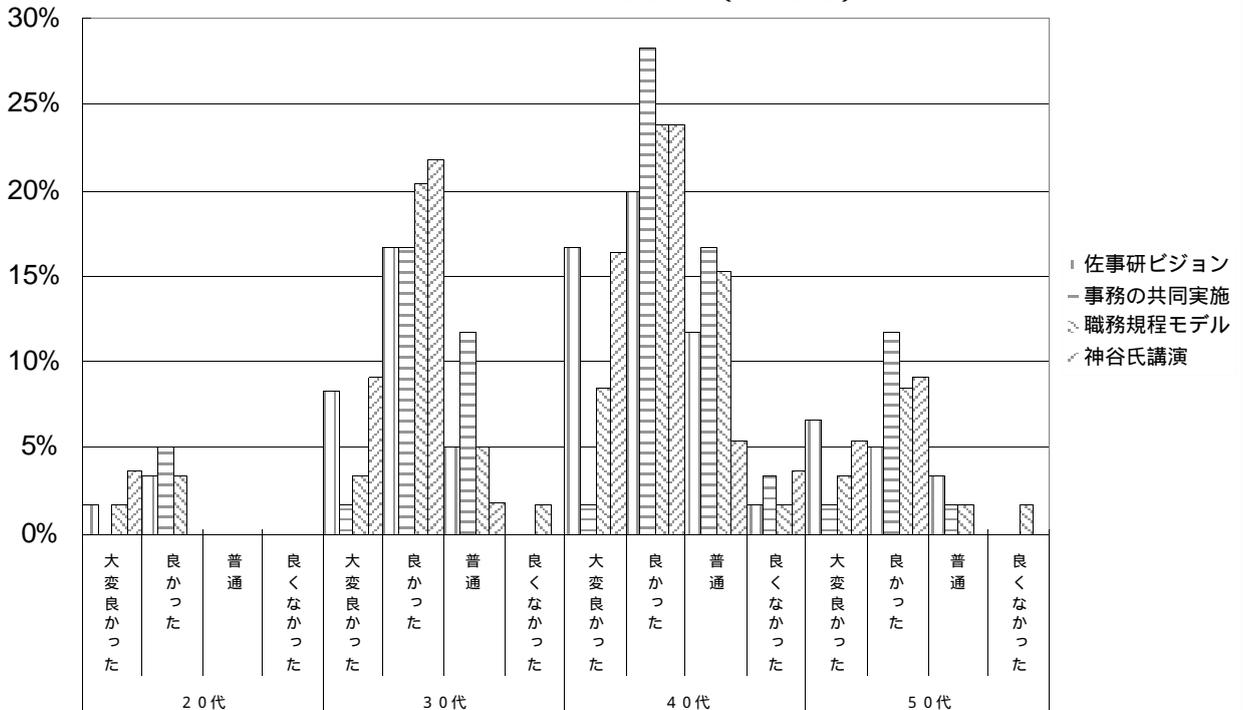
第13回大会アンケート集計表

回答	年代別	合 計			
		佐事研ビジョン	事務の共同実施	職務規程モデル	神谷氏講演
大変良かった		20	3	10	18
良かった		27	36	32	29
普通		10	17	12	4
良くなかった		1	2	3	2
					60/263

第13回大会アンケート結果（回答別）



第13回アンケート結果（年代別）



県外：コメント

佐事研ビジョン

30代：わかりやすくよくまとめてありました。特にキーワードがあるおかげでより理解しやすくなっていました。

30代：既存の概念にとらわれず、大きな視点で学校事務の今後について考えをまとめておられ、とても勉強になりました。

40代：よくぞ、このような貴重な資料を作って頂いたことに感謝します。細部にまで核心をついた資料だと思います。

40代：研究の方向づけの参考になった。

50代：賛否両論うずまく中で文書としてまとめられた苦労は大変なものだったと思われました。

事務の共同実施マニュアル

30代：マニュアルとしては少しものたりなかったですが、共同実施について参考になりました。

40代：さけて通れない道であることを痛感しました。

50代：佐賀県においては共同実施に早急に取り組まれている様子で今後の参考になった。

職務規程モデル

30代：職務規定について、佐賀の現状がよくわかりました。

40代：事務職員にもっと権限を持たせてもらえるよう努力したいと思います。

50代：職務規程の必要性は感じた。

神谷氏講演

30代：中央の情勢、今後の学校事務の展望についてとても参考になりました。

40代：今から大変なことが解りました。

50代：普段聞けない話を聞くことができた。

県内：コメント

佐事研ビジョン

30代：わかりやすいものでした。

30代：新公務員制度で事務職員として能力をどのくらい発揮できるか不安です。

40代：ビジョンといいながら具体的方向については佐事研まかせの様に感じ、すっきりとした方向性については見えてこない部分があります。

40代：班長が遠慮した文章、発言が苦労を見え隠れさせていたなと感じた。現場にいる私たちの仲間（先輩達）は、それを読めたのだろうか？今の厳しい状況を・・・

40代：我々の職務を「学校事務」ではなく「教育行政」との発想に立つ時期ではないでしょうか。

40代：これからの学校事務職員の方向性を示してくれる大きなステップとなると思います。

40代：暗く重たいテーマの発表だったと思います。「閉鎖職種」という言葉がとても変に感じられました。職の特性として、保護者や子供との係わりが少ないのは当たり前的事ではないでしょうか。

40代：発想が力強い。

40代：各項目ごとにキーワードとしてわかりやすく解説してあった。

40代：現状のままではいけない、とはわかっていますが、ビジョンの中に表された言葉の端々に、不快感を伴います。

40代：研究団体であることを逸脱することのないようお願いしたい。

40代：具体的な実現方法をどうみつけていくかが課題だと思います。

50代：これからの指針を与えてもらったようだった。よくまとめてあった。

50代：ビジョン作成までのお骨折りに感謝します。変化する時代にこれを基に職務頑張ります。

50代：印象としては、改定前のほうが、インパクトがあったのでは。

事務の共同実施マニュアル

30代：集中・連携・総括処理という共同実施のスタイルにこだわらない4例でグループ内での人間同士の助けあいが物をいうと思いました。

40代：きめこまやかな支援項目について具体的提示が欲しかった。

40代：まだ共同実施のメリット（実績）がなかなか私には、具体的には見えない。共同実施に手をつけ

なければいけないと思っけていても何から始めれば良いのか・・・。

40代：共同実施が共同作業に終わらないよう、共同実施組織への予算配当・代表者への権限付与が不可欠ではないでしょうか。

40代：資料として保存しておきます。

40代：宮崎県や佐賀県は、文部科学省の広告塔になっているような気がします。共同実施＝定数減、事務職員の序列化になっていくと思います。

40代：来年から関わるかも知れないので、参考になった。

40代：現在、全部の学校が直面することではないと思うので。

40代：足かせとならないことが大切。

40代：加配なしでやれることだし、やっていくべき。

50代：何から始めてよいか惑っている時だけに参考になった。

50代：さらに研究をかさねていく課題と思います。

50代：地区事務研でもシュミレーションとして事務の共同実施をしたが、よく分からない部分が多い。

職務規定モデル

30代：職務規程の問題は、前任校では校長決裁の低さから、常に意識していましたが、現任校では、決裁権が全くない、諸々の規定もない。とう村であるにもかかわらず前任地以上の職務をしているという現状です。今のところ不自由は感じていませんが、今回の発表を受けて、考え直さなければと思っています。ただ村内のもう1人の事務職員は県事研の会員ではなく協力を得られるかどうか不安です。私個人として地教委に本案を示すことは出来ると思いますが・・・。

30代：財務事務取扱要領とその5地方自治体（うち1つはセンター化）の比較の資料がわかりやすくなった。

40代：各自治体への取り組みに頑張らないといけないですね。

40代：市町村合併を機に大きく2つの（職の位置付け）に分かれると思われる。合併時の核となる市（？）がリードして諸規定の整備を特に急いで進める必要を感じる。

40代：市町村合併のあとに役にたつことと思います。

40代：引用された文言は、とても参考になりました。

40代：班長さんが良く勉強しておられる。

40代：最後の言葉“ 勇気をもって、くじけずに ” 私頑張ろうと思いました。

40代：市町村合併の前にひとつでも多く町村で取り組みが必要。合併後では遅い。

50代：規定による事務作業の根拠（裏付）を紹介してもらえてよかった。

50代：予算にたずさわるかぎり条例規則にのっとっていることを改めて考えさせられた。

50代：小川さんの話がおもしろかったが、町村では財務取扱規程にどう取り組んでいくのか難問です。

50代：話が固すぎた。

神谷氏講演

30代：第7次改革により726校の加配され、事務の仕事をいかに効率よくできるか、成果が期待できるところです。

40代：情勢をわかりやすく説明され、益々現在から近い将来の厳しさを感じた。

40代：全国の流れが聞けて良かった。

40代：全事研加入をしましょう。

40代：全国的な事務職員の様子を聞いたのは良かった。

40代：全事研加入について森会長は70%程の賛成があれば・・・との発言。佐事研の加入率が今後低下してしまわないのか・・・、大いに心配です。

40代：全事研は、研究会なのか？事務職員会なのかよくわからない。

40代：みんなが危機感をもてば・・・良いが。

50代：全国や他地区、また現在から今後の大きな流れを教えてもらった。

50代：H16、H18改革を通して冬の時代を迎えるかそうでないかは、私たちのこれからの研修にかかっていると思った。

50代：私たちの前に突き付けられている課題を確認できました。

50代：教育改革の流れの部分が長すぎたかな？

意見・希望

？代：朝から冊子等の盗難にあい不愉快な大会でした。非常に残念です。

30代：佐事研の広報誌ですが、回覧したら裏ワザの所が何故か職員に好評でした。大変だと思いますが、今後も楽しみにしていますので作成をお願いします。（続けていってください）

30代：佐賀市や東与賀町で研修会があるときが多いが、市内に入ると渋滞している。また、東南部にかたよっているので、中心部にあたる多久・小城あたりで開いてほしい。佐賀市を中心にした考えはやめてほしい。

30代：佐事研ビジョン研究発表が2時間とってあったのですが、間に10分程度でも休憩時間が欲しかった。同じ姿勢で2時間座るのは、きつい。2時間続く場合は、間に休憩時間を入れてほしい。

30代：会場の照明がやや暗かった。壇上のテーブルが1脚だけ足隠し(?)がなかったので、発表者の足が丸見えなのが何だか気になりました。

30代：学校事務職員の仕事の大切さをかみしめ事務職員加配によりグループワーキングが活性化し研修も充実することにより自己の職務の向上に努めたいと思いました。

40代：会の開催時期をできましたら10月にしてほしい。

40代：元気になりました。

40代：佐事研ビジョン(案)に係わって、壇上にズラッと並べられた方は、今までの事務職員の方々とは、外見を違うように思いました。まるで管理職の方のような……。学校の中で1人しかいない職種が勝ち組と負け組に分かれてますます小さくなっていくような感じでした。各自が今までのように机に着いて仕事をしているだけで良いとは思いませんが、自分の存在をアピールするために、何でもする、仕事を増やすという事と、職の明確化はどう関連づけていかれるのでしょうか。

40代：会場が駅から遠いとバス・電車等の時間もあり、記念講演中に退席する人が多く、講師の方に大変失礼だと思うので順番を午後の1番にするとかの配慮が必要だと思う。

40代：ネクタイをしめ、ぴしっとしている事務職員をみてびっくり。やればできるんだなと思いました。

50代：全事研加入について、佐賀県でも全事研大会に参加する人は多いならばやはり会費を払うべきだと思います。

50代：明日の教育を担う学校事務を創造しようという気持ちはあるが、昨今、市町村費職員の削減がされて、現場では年休等も取りづらくなっていますことも頭に置いてほしい。

学校事務職員としての8ヶ月を振り返って

本年度採用の佐志小学校の中村さんに学校事務職員として採用されてからの感想をうかがってみました。以下原文どおりです。

唐津市立佐志小学校 中村 裕二

学校事務の仕事に就いてから早くも8ヶ月が過ぎました。まだまだゆっくりと自分を振り返っていられるような私ではないのですが、こういう機会をいただきましたので、少し思い返してみたいと思います。この8ヶ月間を振り返ってみると、なんだか自分の仕事内容も良くわからないままにパタパタと過ぎていった8ヶ月間だったなあという気がします。想像していた以上に学校事務という仕事は忙しくて、内容も多いため、学校に一人しかいないということはなんとなくわかってはいたのですが、実際に仕事をやってみてあらためてその大変さがわかってきたところです。4月、5月ごろは前任の先生に本当によくしていただいて、まるで複数配置のように手伝ってもらっていたため、自分では何をしていたのかほとんど記憶がないというのが実感です。今になって提出した書類を見てみて、こういうこともしていたんだと思うことがあります。今でもそうですが、最初は本当に分からないことの連続で、目の前にある仕事をとりあえず一つずつ終わらせるので精一杯でした。提出書類などは、何をやっているのかもよく理解していないままに、それでも間違えたら大変だろうということぐらいは頭にあったので、本当にこれでいいのだろうか、何か大きな失敗はしてい

ないだろうかと毎日が不安でした。また、ほんの少しずつですが仕事に慣れてきた9月に、情けないことに右手を骨折してしまい、ただでさえ先生方や周りの方々に迷惑をかけているところに、またまたご迷惑をおかけすることになってしまい、さすがに精神的に少し参ってしまいました。しかし、あの怪我をしたことで、本当に学校に事務職員は一人しかいないということを再確認できたというか、だからこそ余計にがんばらなくてはという気持ちになれたことは少しだけ良かったのかなと思います。周りの事務の先生方にも本当にお世話になっていて、とくに事務の共同実施などでは貴重な時間の大半を私のOJTに当てていただくこともあるので、大変ありがたく感じるのと同時に、早く一人の事務職員として、参加できるようにならないと思っています。今はまだ学校事務職員とはどうあるべきかとか、学校を今後よりよいものにしていくために私たちはどうすべきかなど、広い視野で物事を見ることはできません。しかし、わずか8ヶ月という短い間ですが、学校で働いてみて、あらためて日々さまざまな問題が子供たちには起こるものだということがわかりました。それは毎日あわただしく働かされている先生方を見ていても分かります。日々の事務処理に追われると子供の存在すらも忘れてしまいそうで、自分が何の仕事をしているのか分からなくなることもあります。子供たちや先生方が少しでもよい環境で学校生活を送れるようにするのが自分の仕事だということを忘れないで、日々勉強していきたいと思います。

=== おじゃまします ===

東松浦郡には、小川島、馬渡島、加唐島、向島と四つの離島の学校があります。今回は、そのうちの一つである馬渡小中学校を紹介します。

馬渡島は、佐賀県の最西端にある島で呼子から13km、周囲約11km、面積4.13km²で玄海灘に浮かぶ佐賀県内最大の島です。島名の由来については(斑島を馬渡島と書き改めた)とか、大陸より馬が最初に渡来したので(馬渡る島)といったとも伝えられています。その島に、児童生徒数が99名の馬渡小中学校があります。馬渡小中学校に勤務されて4年目の室井秀弘事務長に離島での勤務や生活についてお伺いしました。

Q：馬渡島での生活はどうか？

A：職員のほとんどが学校の近所にある職員住宅で生活をして、週末に自宅に帰る方が多いようです。島での生活は、船便が少なく困るがそれ以外は個人的にはあまり不自由さを感じません。

Q：離島での勤務はどうか？

A：基本的な部分での仕事は変わりませんが、船便を利用するので出張関係で船が欠航になった場合とか、郵便物が1日遅れて届くとかの不都合はあります。それに、給与が現金支給なのでその点気を使っています。

Q：最後に馬渡島のPRをお願いします。

A：馬渡島の人には人情が厚くとても住みやすいところです。自然や魚釣りに浸りたい方は、是非お出でください。

平成14年度 補正予算について

12月5日(木)アバンセにおいて第4回理事会が開催され、補正予算が承認されました。下記のとおりです。

ガイドラインにより掲載して
おりません。

会員の皆さまへ

理事会報告の「8.佐事研ホームページの運営について」に記載されているように、佐事研HPを完全にリニューアルしました。一度アクセス (<http://www.saga-ed.go.jp/materials/SAJIKEN/>) してみてください。

忘年会・新年会と宴席が続きますが、体はご自愛ください。それでは、**よいお年を！！**

アクセス！ (<http://www.saga-ed.go.jp/materials/SAJIKEN/>)